

○基本計画の名称：甲府市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：山梨県甲府市

○計画期間：平成 26 年 11 月～平成 32 年 3 月（5 年 5 か月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 甲府市の概況

本市は、甲府盆地の中央を南北に縦断し、南に富士山、北に八ヶ岳、西に南アルプス連峰を仰ぎ見る風光明媚な土地柄である。溪谷美日本一の昇仙峡を代表とする美しい自然環境と県都にふさわしい都市的景観の織りなす風景から、「山の都」とも形容されている。作家太宰治は、その作品の中で甲府について、「シルクハットをさかさまにして底に小旗を立てたような、文化のしみとおったハイカラなまち」と表現している。

明治元年（1868）に甲府城が接収され、甲州鎮撫府、甲斐府、甲府県などと呼ばれ、明治4年（1871）11月山梨県と改められた。以後、文明開化の風潮の中で着々と発展し、明治22年（1889）7月甲府総町、上府中組を中心としてこれに近接の飯沼、稲門両村を合併し、世帯数6,855戸、人口31,128人をもって、市制が施行された。

市制が施行されて以来、明治36年（1903）中央線甲府～八王子間の開通、明治44年（1911）には全線開通、大正2年（1913）1月上水道の完成、昭和3年3月には身延線が全線開通し、本市にとって大きな変革をもたらした。

昭和12年8月に里垣・相川・貢川・国母の4カ村と第一次合併、続いて昭和17年4月に第二次合併、昭和24年12月に第三次合併、昭和29年10月に第四次合併を経て、近年では平成18年3月に中道町・上九一色村北部地域と第五次合併を行い、県都としての役割も一層高まっている。

人口は約 20 万人、市域面積は 212.41 k m² となり、地方分権時代の地域の新たな担い手として、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指している。

また、平成 18 年には少子・高齢化が進行する人口減少社会の到来、地震などの災害への高まる不安、環境問題への取組、長引く景気低迷による税収の落ち込みなどを踏まえ、自立する自治体の構築に向けて計画的で実効性のある市政運営指針として、第五次甲府市総合計画を策定した。同計画は本市のあるべき姿を創造するため、市民の参画・協働に基づく市民サービスの推進を基本とし、“市民と行政の役割の明確化” “協働型社会の構築” “行財政改革の強化” “公平・透明な行政運営” の実現を基軸に、目指す都市像を「人がつどい 心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府」と定め、その実現に向けて諸施策を推進している。